楽曲選択における性格特性と音楽要素の関係

〇〇ルディムナ 優子¹・ 岩永 誠¹

(¹広島大学大学院総合科学研究科)

キーワード: 選択行動, 性格特性, 音楽要素, 目的感情

An examination of the relationship between personality trait and structural elements of music in selected compositions

Yuko Le Dimna and Makoto Iwanaga (Hiroshima University)

Key words: selecting music, personality trait, elements of music, objective emotion.

目 的

人は日常生活の多くの場面で音楽を聴いているが、時と場合によって聴きたい音楽が変わる (DeNora,1999)。音楽聴取は気分変化のためでもあることから (Sloboda,1999), その目的感情によっても選曲は異なるはずである。疲れている時に「元気になりたい」と思う場合と「リラックスしたい」と思う場合では、聴きたい音楽が異なる事が多い。人の感情は「快-不快」「鎮静-覚醒」の 2 次元の軸上に附置でき (Russell, 1980), 楽曲の選択はこの 2 次元上の感情を目的として行われると考えられる。その際、好きな曲を前提として選択が行われると考えられるため、個人特性による影響を受けるものと考えられる (Zillmann&Gan,1997)。刺激希求性の高い人ほどハードロック音楽を聴く傾向がある事 (Stratton & Zalanowski, 1997)からも、個人特性によって好みの曲想や目的感情の志向性が異なることが予測される。中田 (2008) は、イライラした時に聴きたい音楽において、楽曲の明暗性と複雑性が個人特性と関連していることを報告している。しかし、先行研究では、曲想は主観的評価に基づいており、音楽要素ではないために楽曲の具体的な特徴がわからない。

本研究では、楽曲の力動性、明暗性、複雑性を曲想として取り上げ (岩永,1999), その指標である音楽要素として「テンポやビート」、「長調・短調」、「テーマ数」を取り上げる。また、感情の覚醒-鎮静軸に着目し、「鎮静」と「覚醒」を目的感情とした場合に選択される楽曲の音楽要素と個人特性の関係を検証する。

方 法

調査対象者 大学生 247 名 (男性 118 名, 女 129 名)

調査項目 「鎮静効果の曲」「覚醒効果の曲」の曲をそれぞれ 1 曲だけ選択してもらい曲名とアーティスト名を記入してもらった。全てポップスの曲で「鎮静効果の曲」「覚醒効果の曲」の 2 曲全ての情報が揃っている 247 名のアンケートを調査対象とした。

個人特性 Big Five (和田, 1996) を用いて外向性、情緒不安定性、開放性、誠実性、調和性の 5 因子を 60 項目 7 件法で測定した。

音楽要素 取り上げた音楽要素は、力動性として「テンポ」、そして躍動感を 1 拍のリズムを刻む音符の長さを基本単位として表した「ビート」(4 ビート, 8 ビート, 3 連符系, 16 ビート) に分類、明暗性を示す要素として「長調・短調」、複雑性として、テーマ数が増えることで音楽的内容が複雑化される「テーマ数」(2 テーマ, 3 テーマ, 4 テーマ, 5 テーマ, 6 テーマ以上) である。

分析 「鎮静」と「覚醒」の目的感情における一般的な楽曲選択傾向と、それぞれの個人特性ごとの楽曲選択傾向を高低 2 群に分け、クロス集計により χ^2 検定で検証した。

結 果

好まれる音楽聴取における楽曲選択は、目的感情により異なるはずであり、その選択は感情の 2 次元軸上の感情を目的

として行われ、個人特性の影響を受けると予測される。本研究では、これらの関係を音楽要素と性格特性を用いて検証する。目的感情が「鎮静」と「覚醒」の場合、一般的な傾向は、鎮静の曲ではテンポは (MM=96), 覚醒の曲では (MM=134) であった。また、鎮静を目的とした場合、リズムパターンは 4 分音符を基本単位とした 4 ビートで、明るい長調の曲を好むものの、テーマ数の多い複雑な曲は好まれないことがわかった。覚醒を目的とした場合、4 ビートは好まれず、軽快にリズムを 8 分音符で刻む 8 ビートや短調の曲が好まれ、複雑性については 6 テーマ以上の複雑な曲が好まれることがわかった。

個人特性の影響による違いを検証するために 5 因子全ての性格特性について検討した。外向性の高い人は鎮静を目的とした場合にテンポの速い曲を好むこと、情緒不安定性の高い人は覚醒を目的とした場合に長短混合調を好み、鎮静を目的とした場合に 8 ビートと 3 連符混合のビートを持った曲を好む傾向があった。開放性の高い人は、鎮静を目的とした場合にテンポの遅い曲を好み、覚醒を目的とした場合はテーマ数の多い複雑な曲を好んでいた。誠実性の高い人は、覚醒を目的とした場合にテンポの遅い曲を好むことが、また調和性の高い人は、覚醒を目的とした場合にテンポの遅い曲を好み、鎮静を目的とした場合に短調の曲を好む傾向が認められた。

考 察

「鎮静」「覚醒」という目的感情によって選択する楽曲が異なり、今まで主観指標によって捉えられてきた曲想の力動性、明暗性、複雑性を速度、調性 (長調・短調)、リズム (ビート)、テーマ数など具体的な音楽要素により比較できることが確認された。その結果、鎮静効果の曲はテンポが遅く、4 分音符を基本とする大らかなリズムパターンで、明るくテーマ数もシンプルな曲が好まれること、覚醒効果としてはテンポが速くなり、リズムも躍動感のある 8 ビートで短調の曲、そしてテーマ数の多い複雑な曲が好まれることが確認できた。また、楽曲選択が個人特性の影響を受けており、5 因子の性格特性によって好みの曲想や志向性が異なることも確認できたが、外向性の高い人は鎮静を目的とした曲ではテンポの速い曲を好む傾向が認められた。これは外向性の刺激希求性からくるものと予測される。目的感情によって選択された楽曲の曲想も、個人特性のタイプにより具体的な音楽要素として同じように 2 次元軸上に附置できることが予測される。その図表の作成は、音楽療法などで使用される楽曲の選択などに重要な役割を果たすと考えられる。

Table 1 個人特性の影響による楽曲選択の違い(外向性)

	テンポ				合計
	鎮静・遅	覚醒・遅	鎮静・速	覚醒・速	
外向・低	73*	64	61*	70	134
外向・高	50*	64	63*	49	113
合計	123	128	124	119	494

$$\chi^2 (3, N=494) = 4.50, p < .05$$